

平成24年度 学校自己評価システムシート (さいたま市立浦和高等学校)

目指す学校像	中高一貫教育校として、中学校と連携を密にし、生徒の個性と能力を重視した特色ある教育活動を展開する。
重点目標	1 中高一貫教育の確立 2 授業と進路指導の充実 3 国際理解教育と開かれた学校づくりの推進

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標					年 度 評 価 (2月1日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> 中高一貫校として6年目となり、1期生が高校3年に進級し、中高全学年に内進生クラスができた。 内進生の総合系教育課程の検討が引続き必要である。 授業における中高教員の相互乗り入れ、行事や部活動等の中高合同実施を再検討し、それらの課題を解決する。 浦和中学校の保護者は高校の教育活動についての情報提供を欲している。 	中高一貫教育の確立	<ol style="list-style-type: none"> 中高6年間を見通した教育課程の検討。 合同行事や部活動の見直し。 中高合同教科会・研修会を定例化し、授業内容の検討、教授法の研究により中高の有効な接続・充実を図る。 中高接続中期課程における先進校視察。 6年間の教育活動の検証を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 理念とニーズのバランスの取れた教育課程が編成できたか。 教育効果の高い行事や中高合同部活動のあり方を検討できたか。 中高教員の相互授業乗り入れ状況。 先進校視察の実施回数と内容。 浦和中学校の保護者対象説明会の実施とその内容。 	<ul style="list-style-type: none"> 中高合同のブロック対抗体育祭を9/6に実施することができた。中高部活動接続に関する共通理解を図ることができた。 相互授業公開週間・合同教員研修会を実施することができた。 先進校視察2校5名派遣。先進校より5校16名来校。 浦和中保護者対象説明会を11/10に分科会形式で実施。高校の取組に対する理解が深まった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 6学年に中高一貫生が在籍する完成年度を迎え、行事や部活動での課題解決に大きな進歩が見られた。 今後は、昨年策定した新教育課程の実施により、中高一貫教育校としての特色ある取組で生徒の能力を育てるために、さらなる中高教員の相互乗り入れ、定期的な合同教科会実施、教授法の研究等を進めていく。
2	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度大学入試センターの受験率は23年度と同様の96.3%であった。 内進一期生の進路決定年度である。また、一般生でも高い志を掲げ、難関大学へのチャレンジが増加。授業力の向上や進路指導の充実、進学補習等の対応が求められている。 校風でもある文武両道を推進し、活気ある部活動が行われている。家庭学習時間の確保や進路指導とのバランスにさらなる工夫が必要である。 登下校の交通マナーや制服の着こなし等に関する指導が必要である。 	授業と進路指導の充実	<ol style="list-style-type: none"> 土曜授業や行事の見直しで授業時間を確保。 個別相談、進路ガイダンス、保護者進学セミナーの実施。 進学補習の充実と大学入試問題解説の作成。 生徒による授業評価の実施や先進校や予備校の指導法に学ぶ。 学力向上委員会による進路諸課題の整理。 部活動で最後までやり抜く力を育てると共に下校時刻を厳守させ家庭学習時間を確保する。 遅刻指導、登下校指導、整容指導、清掃指導、挨拶指導を実施し、規律ある学校生活を基にした進路実績の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業日数の増加数。 大学入試センターの受験率・得点状況。 センター後の指導状況。 個別面談や進路ガイダンス、進学補習等の実施回数。 国公立大学や難関大学への進学状況。 生徒による授業評価の有効な活用。 先進校や予備校の研修会等への参加。 部活動の参加率や大会の成績。 学年+1時間の家庭学習時間の実現。 遅刻日数の減少。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事の見直しで授業日数3日間増加。 センター受検者は昨年より11人減。全国平均が大幅に下がった中、本校は下げ幅が少なかった。 授業日進学補習は12講座、夏季講習は51講座のべ1864人の参加。 難関大学志望者の大幅増。 授業評価アンケートは新システムの導入により大幅な実施コストの削減が期待できる。 予備校主催の教員セミナーへの33人の教員が参加。 インターナショナル大会第3位、放送部・美術部・音楽部全国大会出場、陸上部関東大会出場等の他、授業中の指導から、書道作品県教育長賞受賞や英語スピーチコンテスト県準優勝等の成績を収めた。 遅刻日数約13%減。家庭学習時間は目標未達成。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上委員会を設置し、入試問題解説の作成や自習室の開室時間延長等を実現することができた。今後はそれらを含む学年毎の取組を、組織的なものとして系統化し、継続させることが課題である。 センター対策はもちろんのこと、センター後の二次対策に今まで以上に重点をおいた進路指導、学習指導を目指す。 より高いレベルでの文武両道を実現するために、授業の質の向上と授業規律、家庭学習時間の確保に関する対策が必要である。 式典における整容指導が徹底された。引き続き、規律ある生活が全ての基盤になることを理解させていく。
3	<ul style="list-style-type: none"> 高い知性と豊かな感性を育て、国際社会でリーダーとして活躍する生徒育成のため、双方向の国際理解教育を推進している。 ホームページのリニューアル予定が、市内4校ネットワークへの参入により不可。 公開授業や学校説明会等様々な機会を活用し、情報提供に努めている。 保護者と生徒による学校評価アンケートを継続し、ニーズを把握している。 	国際理解教育と開かれた学校づくりの推進	<ol style="list-style-type: none"> 海外研修派遣事業や米国高校生受け入れ事業、海外修学旅行等を実施する。 ホームページの充実に努め更新頻度を高める。 学校説明会の実施方法を工夫し、本校入学希望者に対して、具体的な情報提供が行えるようにする。 引き続き保護者と生徒による学校評価アンケートを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 国際交流等の実施回数とその内容。 ホームページの更新回数及び閲覧回数。 学校説明会や公開授業の実施回数。 中学校PTAや上級学校訪問受入れ回数。 学校評価アンケートにおける各種データの値の状況。 	<ul style="list-style-type: none"> 米国高校交流事業に8名受入12名派遣、海外修学旅行実施、ローター交換留学生受入派遣各1名、韓国訪日団歓迎会300名参加。 HP更新回数110回(昨年比約2倍)アクセス数134785。 学校説明会で部活動の発表も実施。申込者数2700名。土曜公開授業17回実施、来校者数861名。地域の中学校PTA7校、中2上級学校訪問21校受入。 保護者・生徒による学校評価アンケート実施。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 国際理解教育については、様々な取組を行えた。ベテラン教員の持つノウハウをいかに引き継ぐかが課題である。 災害時の緊急連絡用ブログを開設できたが、運用方法に改善の余地が残る。ホームページのリニューアルも含めて、情報発信に関する検討が必要である。 学校説明会や公開授業、学校評価アンケートは継続して実施し、アンケート結果等を学校運営や行事に反映させ、常に改善の意識を持つ。

実施日	平成25年2月18日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> 中高合同ブロック対抗の体育祭は非常に良い取組である。行事の中で感動体験を積み上げ縦割りの中で先輩に学ぶことは中高一貫ならではの取組である。更なる内容の充実を期待する。 浦和中学校保護者対象の説明会で高校の授業や生活をよく理解できた。 中高一貫教育の完成年度の成果を踏まえて、今までの教育活動全般を見直す必要がある。 進路指導に関して、様々な取組の成果があらわれている。公立高校の使命を忘れず、大学進学だけでなく、社会に出てたくましく生き抜いていく力を養っていただきたい。 行事等を通じて人間としての総合力を高める取組は継続して欲しい。その上で、教員のやるべきことは「授業の質を高めること」である。そのための具体的な工夫をして欲しい。 校内美化に努めて欲しい。 文武両道の校風を維持して欲しい。 授業評価アンケートの結果を授業改善に活用して欲しい。 生徒のしなやかで力強い成長を支えるのが規律ある生活態度や学習態度である。引き続き繰り返し繰り返し指導していただきたい。 HPは以前より充実してきている。さらに保護者への連絡配信ツールとしての機能も持たせて欲しい。 学校評価に関して様々な取組を行っていることを評価する。 中高一貫教育の完成年度の成果をふまえて、評価システムやシステムシートを見直す必要がある。 	